

全学共通教育についての自己点検・評価報告書（教育部会用）

教育部会名： 情報科学  
部会長名： 大月 一弘  
作成者名： 大月 一弘

概要（2000 字）

情報科学部会は、全学必修科目の「情報基礎」、専門基礎と同等の扱いである「情報科学」、教養原論である「情報の世界」という教育目的の異なる 3 つの授業科目を担当している。

情報基礎については、授業内容・授業計画を統一し、e-learning システムを用いた授業を行っている。2009 年度に実施した外部評価において、外部評価委員から「教授内容を毎年変化させる」こと「これまでの授業運営の経験が十分に生かされている」ことなどについて高く評価を受けているが、2011 年度も部会幹事を中心として授業内容の企画・整備を行った。毎授業ごとに部会独自で作成した web アンケートを実施している。同アンケートの分析、ならびに I T 利用に関する社会のニーズや動向の分析をもとにカリキュラムを改善した。2012 年度の授業についても、同様の分析に加えて、図書館との間で打ち合わせを行い、授業内容の改善を図った。

また、同科目の目的が「神戸大学の学生としての一定以上のレベルにすること」であり、個々の学生の能力を伸ばすようなカリキュラムとするよりは、全学生を一定レベルにすることであることを考慮して、2012 年度より成績評価の方法を「優・良・可・否」の段階別判定から「合否」の二段階の成績評価に変更した。合否のみの評価だと学習意欲の低下につながる可能性が心配されたが、出席状況・課題提出状況などに過年度との差はみられなかった。また、担当教員からも評価の変更にもなう問題点などの報告はなかった。このことから、教育効果が低下していることはないと判断する。

情報科学については、学部・学科単位のクラス編成であり、学部等の専門基礎としてふさわしい科目となるように、各学部の特性に応じて教授内容を工夫している。授業アンケートに書かれていた要望に基づき、教材を Web 化して自由にダウンロードできるようにするなどの工夫がみられる。

教養原論は、一般教養科目であることを考慮して、各教員の行っている最新の研究成果を授業に反映できるようにしている。

学習環境に関しては、K501, K502 のコンピュータ教室は、教育用端末が整備されているが、端末間のスペースが狭く、実習中教員や TA がサポートのため巡回するには手狭であるという問題がある。また、100 人規模以上の講義室においてスクリーンが前方一か所のみでは、パソコンによる教材提示が後方の学生にみにくいとの指摘もあった。

## 項目・観点ごとの記述

### 基準 5 教育内容及び方法

5-1 【教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）が明確に定められ、それに基づいて教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準が授与される学位名において適切であること。】

5-1-③： 教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮しているか。

(観点に係る状況)

情報基礎に関しては、前年度の授業分析を踏まえ、講義内容の見直しを行い、Web テキストの内容を更新した。情報科学については、日々進展している領域であるため、複数の参考書や最新のトピックを取り上げ、SPI 試験等にも対応できる講義を行った。教養原論については、担当教員の研究分野における最新のトピックを含めた授業を行った。

根拠資料

情報基礎：Web テキスト (<http://johokiso.center.kobe-u.ac.jp/2012/>)

情報科学・教養原論：シラバス、パワーポイント資料、記入式配付資料

5-2 【教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。】

5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法が採用されているか。

(観点に係る状況)

情報基礎については各クラスの履修者数に応じて、教員 2 名または 3 名およびティーチングアシスタント 2 名または 3 名で授業を担当し、1 人 1 台のコンピュータを割り当てた。授業を実施するに当たっては共通の手順書を準備し、教員が異なってもすべてのクラスで同じ質の授業を実施できるようにした。

講義科目である情報科学においても、一部のクラスにおいて、15 回の授業のうち 2 回をコンピュータ教室を利用した実習とし、講義内容を機器操作実習により確認する学習を行った。

教養原論に関しては、教員持ち込みのノート PC を用いてスライドやビデオ、Web テキスト等の教材と情報機器を活用した講義を行った。

根拠資料

情報基礎：各クラスの受講者数一覧表、担当者一覧表および座席表

Web テキスト (<http://johokiso.center.kobe-u.ac.jp/2012/>)、授業手順書

情報科学・教養原論：シラバス、自己点検・評価報告書 (様式 1)

5-2-②： 単位の実質化への配慮がなされているか。

(観点に係る状況)

情報基礎の学習目的が「神戸大学の学生としての一定以上のレベルにすること」であり、個々の学生の能力を伸ばすようなカリキュラムとするよりは、全学生を一定レベルにする

ことであることを考慮して、2012 年度より成績評価の方法を「優・良・可・否」の段階別判定から「合否」の二段階の成績評価に変更した。  
また、変更に伴う学生の受講状況・課題提出状況をチェックし、成績評価の変更による学習意欲の低下などがおこっていないことを確認した。

根拠資料  
情報基礎出欠表・課題提出状況（全クラス）

5-2-③： 適切なシラバスが作成され、活用されているか。  
（観点に係る状況）

情報基礎については、全クラス統一のシラバスを作成している。情報科学・情報の世界については、各クラスごとに適切なシラバスを作成している。

根拠資料  
シラバス、自己点検・評価報告書（様式 1）

5-2-④： 基礎学力不足の学生への配慮等が行われているか。  
（観点に係る状況）

情報基礎のテキストは全て Web ページ上に置いてあり、随時閲覧できる。また、その中で、それぞれの単元ごとに「ちからだめし」（小テスト）を設けており、随時、繰り返しテストを受ける事ができる。また、ちからだめしの結果は自動採点され、各学生は自分の成績を閲覧できるとともに、担当教員は担当する全ての学生の状況を確認できるため、各学生に対して適切な指導を行う事が出来る。

根拠資料  
情報基礎：Web テキスト（<http://johokiso.center.kobe-u.ac.jp/2012/>）

**5-3 【学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）が明確に定められ、それに照らして、成績評価や単位認定、卒業認定が適切に実施され、有効なものになっていること。】**

5-3-②： 成績評価基準が策定され、学生に周知されており、その基準に従って、成績評価、単位認定が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

成績評価基準については、シラバスに記載してある。

情報基礎については成績評価基準を全クラスで統一し、出席、課題の採点結果に基づいて公平に採点した。情報科学および教養原論については、シラバスに記載した内容に基づいて成績評価を行った。

根拠資料  
情報基礎：課題レポートの解答メール、オンライン小テスト、成績集計システム（<http://johokiso.center.kobe-u.ac.jp/2012/> 教員用ページ）による自動採点、自己点検・評価報告書（様式 1）

情報科学および教養原論：シラバス，授業評価アンケート，自己点検・評価報告書（様式 1）

5-3-③： 成績評価等の客観性，厳格性を担保するための措置が講じられているか。  
（観点に係る状況）

情報基礎については成績評価基準を全クラスで統一し，全クラスが同一の基準で成績を出すようにしている。出席，課題の採点結果に基づいて自動的に成績を計算できる成績集計システムを作成し，全教員が同システムを用いて成績評価を行っている。情報科学および教養原論については，シラバスに記載した内容に基づいて成績評価を行った。

根拠資料

成績集計システム（<http://johokiso.center.kobe-u.ac.jp/2012/> 教員用ページ）による自動採点

## 基準 6 学習成果

6-1 【教育の目的や養成しようとする人材像に照らして，学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について，学習成果が上がっていること。】

6-1-②： 学習の達成度や満足度に関する学生からの意見聴取の結果等から判断して，学習成果が上がっているか。

（観点に係る状況）

情報基礎に関しては，授業回数が少ないことに不満が多く，学生の評価に影響を与えていると考えられるが，授業評価（総合判断）が 3.8 であり，回数以外に対しては高い評価であると考えられる。

情報科学および教養原論「情報の世界」の評価については授業評価（総合判断）が 3.7 を超えており，何れも教育の成果や効果が上がっているものと思われる。

根拠資料

学生授業評価アンケート  
自己点検・評価報告書（様式 1）

## 基準 7 施設・設備及び学生支援

7-1 【教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され，有効に活用されていること。】

7-1-④： 自主的学習環境が十分に整備され，効果的に利用されているか。

（観点に係る状況）

情報基礎は，コンピュータ教室を使用した授業であるが，同教室は授業時間以外は自習用に開放してある。同教室は放課後も利用できるように，TA を配置して午後 7 時まで自習用に開放している。

根拠資料  
K501,502 教室開室案内

**7-2 【学生への履修指導が適切に行われていること。また、学習、課外活動、生活や就職、経済面での援助等に関する相談・助言、支援が適切に行われていること。】**

7-2-①： 授業科目、専門、専攻の選択の際のガイダンスが適切に実施されているか。  
(観点に係る状況)

情報基礎は、全学必修科目であり、授業開始時に資料を配布してガイダンスを行っている。情報科学は専門基礎科目であるため、各学部の教務に授業科目選択のガイダンスは任せている。情報の世界は、原論科目であり事前抽選となっているため、学生がシラバスをみでの選択となっている。

根拠資料  
情報基礎配布資料  
自己点検・評価報告書(様式1)

7-2-②： 学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されており、学習相談、助言、支援が適切に行われているか。

また、特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への学習支援を適切に行うことのできる状況にあり、必要に応じて学習支援が行われているか。

(観点に係る状況)

情報基礎に関しては、情報基盤センターが提供するメーリングリストサービスを利用して、クラスごとに学生から電子メールで担当教員およびティーチングアシスタントに対して随時、質問が受け付けられるようになっている。

他の科目についてもオフィスアワーに関しては教員の Web ページ、シラバス等に掲載している。一部の教員は、配布資料の電子版を Web 上で閲覧できるようにしたり、授業終了時に質問受け付けのためしばらく待機するなどの工夫がみられる。

根拠資料  
情報基礎ホームページ  
自己点検・評価報告書(様式1)